



# 森ボラ 通信

第117号 2012年2月20日発行  
NPO法人北海道森林ボランティア協会

URL <http://shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6ラルズビル3F

Tel. (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com

## ■ トピックス

### ◆ ホンジュラス共和国でセミナー「日本の防潮林」に参加。

#### >> 熱帯林に行ってきました <<

その1: セミナー「日本の防潮林」(来月その2は「エコツアー」を予定)

東日本大震災について世界各国から募金が寄せられる中で私が以前にJICA ボランティアをしていたホンジュラス共和国からも街頭募金で300万円が贈られたことを知り感動しました。そして「他の国の人たちと災害情報を共有して防災思想を啓蒙する」との国際交流基金の知的交流会議助成プログラムに申請して採用となり市山と酒井にてセミナーとワークショップを行ってきました。また1日だけエコツアーに参加しました。

2月1日

中央アメリカのホンジュラス共和国、国立森林科学学校の大講堂に学生150名のほか教授陣など含めて250名が集まり講演を行いました。30名ほどは私の知り合いです。学長のミゲル・バルデスさんの招待挨拶、副学長挨拶に続き西語通訳付きで酒井が11年前にこの学校で顧問をしていた旨の自己紹介、市山さんが北海道森林ボランティア協会の紹介、DVDで大震災の様子を紹介してから25枚のパワーポイントで「津波コントロール林」のプレゼンを行いました。最後に「今までに19本以上木を植えたことのある人は挙手を」と求めたら先月入学したばかりの1年生以外は全員手を挙げて終了となり、立ちながらの大喝采でした。

学生達は中央アメリカ各国から来ている真面目な学生で震災での防潮林の様子を共有できたことを確信しました。そして海岸林の大切さをみなわかってくれたと思います。

30枚のアンケートを集めました。27枚は「大変満足」でした。たとえば林業技師コースのダゴベルト・ウジョア君は「ほかの国でもその森林をどうすべきか大事なことを知りました」林業士コースのフリオ・ツアルテ君は「講義は大変興味があり大変建設的で私たちの保全と私たちの一般生活にも役にたつものでした」最後の通訳のドーラ・バルデビエソと準備をしてくれたドーラ・デ・レイバにも拍手がありました。後で聞くと教授陣は日本の林野庁の復興計画4パターンに一番関心があったようです。

2月4日

シグアテペケ市から通訳助手と4人でテラ市のランセティアに移り植物園研究生、NGOプロランサテ(デニス・シエラ理事ほか)テラ市役所テラ消防署員など25人とワークショップを行いました。



植物園副園長のカルロスバジェさんの挨拶から始まり前回と同じ進行で行いました。終了後に質疑に入り「コーラルリーフ」の津波低減効果と死滅の質問には明確に返答できず牡蠣の移植作戦の話をしました。また日本の松林とこちらのマングローブ林の差については議論の合わない部分もありました。ここはカリブ海でハリケーンミチの災害で1万人も死亡した過去があるために話題は現実的で最後にはパワーポイント資料を自分のUSBにコピーしてゆく人が5人もいました。

このワークショップの主催は環境保全NGOで昨年9月からの折衝にも誠に連絡が悪く招聘状もよこさず私もコーディネーターも大変苦労しました。ただ時間のゆっくり流れるこの国で15分も遅れずにセミナーが始まったことには感心しました。(記・酒井)

◆ 1月セミナーから 「北海道の薬草、山菜、毒草」1月18日 参加者23名)  
北海道立衛生研究所 理化学部薬品保健グループ主査(薬学博士) 佐藤 正幸 先生

我々山菜については日頃から山に入り接する機会が多いのですが、薬草、山菜、毒草を系統立てての学習はあまりチャンスがありませんでしたが、今回植物毒をご専門の佐藤先生にご講演を戴きました。

先ず、最初に標記の仕方で生薬は植物を乾燥させた物をカタカナで書き、その薬理作用が解明された物を漢方として漢字で表します。例えばシャクヤクを漢字にあてると芍薬、センキュウは川芎と書きます。道内での有毒植物による食中毒の事例を紹介。

我々が身近に接している山菜と間違え易い毒草を取り上げ特に注意を要する植物群としては、

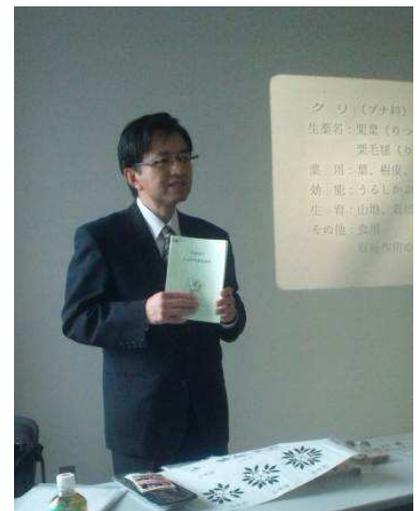
ニリンソウ(食) → トリカブト(毒)、セリ(食) → ドクゼリ(毒)、ニラ(食) → スイセン(毒)、モロヘイヤ・アシタバ・ゴボウ(食) → チョウセンアサガオ(毒)、シャク(食) → ドクニンジン(毒)を指摘。これらの相違点を薬物ハンドブック(北海道編)と先生が収集された貴重なスライドを見ながら解説されました、お互いの根、茎、葉、花の部位別特徴の間違い易い点、注目点(毛や斑点の有無)、味(甘い、苦い)、形(葉、茎)、色等食用として可能な山菜と毒草を見分ける事が大切であり、特に毒草の有毒部分、有毒成分、中毒症状を具体的事例に沿って解説して頂きました。

毒草の中で三代毒草と云われているトリカブト、ドクゼリ、ドクウツギですが、その毒性は採取場所、季節、部位により異なるので特に注意が必要であることも解りました。道立衛生試験場では毎年山菜展を公開して有毒植物への注意を呼びかけています。又、北海道では北方薬用植物の宝庫として知られ、シャク、センキュウは日本で一番採れるとのこと。

毒草の中で三代毒草と云われているトリカブト、ドクゼリ、ドクウツギですが、その毒性は採取場所、季節、部位により異なるので特に注意が必要であることも解りました。道立衛生試験場では毎年山菜展を公開して有毒植物への注意を呼びかけています。又、北海道では北方薬用植物の宝庫として知られ、シャク、センキュウは日本で一番採れるとのこと。

ヤマゴボウは毒草ですが、スーパーで売られているヤマゴボウの漬物はモリアザミの根でヤマゴボウとして売られています。チョウセンニンジンによくトウキ、センキュウ、ウコギをチョウセンニンジンとして売られていることがあるので注意が必要とのことですが、素人には判別が難しいようです。ウルシに被れたときには収斂作用の強いクリの葉を患部にすり込むとよいそうです。

佐藤先生には一つ一つわかり易く説明を戴き有難うございました。この春からの山菜採りに大いに役立たせ楽しみたいものです。(記・事務局)



◆ 『国有林へようこそ』 (1月18日 参加者23名)  
北海道森林管理局 石狩地域森林環境保全ふれあいセンター所長 志鎌 睦 先生

I. 国有林ってなんだ？

- ・国有林の概要・・・林野庁は「日本一の地主」として国土の2割、北海道の4割、札幌市の5割を管轄している。北海道の国有林の90%は17種類の保安林に指定されている。北海道の森林の55%

が国有林でその内の70%が天然林です。843箇所の保護林を結ぶ「緑の回廊」が3か所、38千ha、149kmとなっている。

- ・森林・林業再生プラン・・・木材の自給率を10年後には50%以上とする。担い手育成、フォレスター（森林計画を立案）の育成により、路網整備、コスト縮減を目指している。

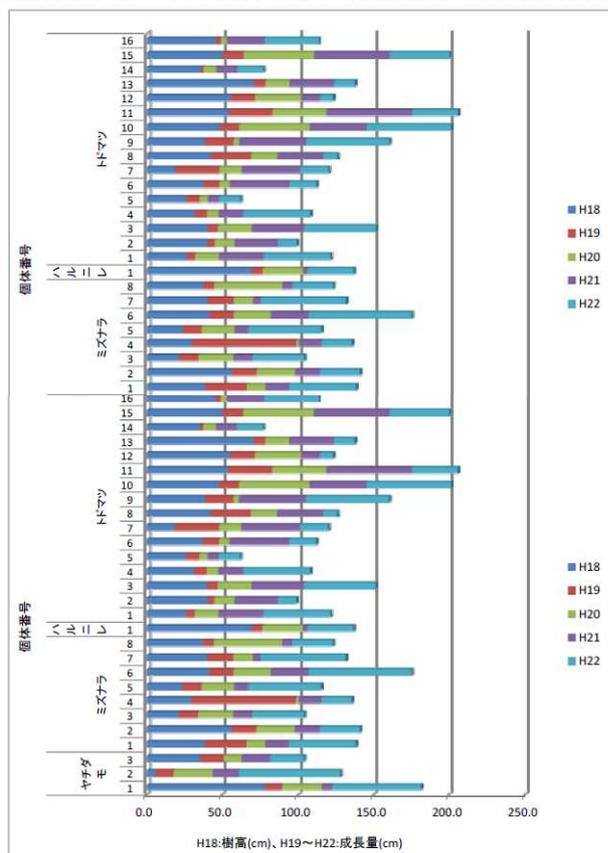
## II. 大切な森林を守る市民活動

- ・市民活動の紹介・・・植林、清掃、環境保全の他クマガ



### 《植栽木の樹高成長量》

- ・植栽木はトドマツ、ミズナラ、ヤチダモ、ハルニシ、カツラ、ケヤマハンノキなど。
- ・樹高成長は順調で、ヤチダモでは高さ180cm、トドマツでは200cmを超える個体が出現しました。



平成23年度野幌自然環境モニタリング検討会第13回現地検討会(②42林班か小班=森ボラ担当地・抜粋)

この調査では森林相調査の他に菌類、歩行性昆虫、野生動物についても継続調査が実施されており、今後も見守っていく必要があると思われる。その他エゾシカ対策についても若干の説明がありました。貴重な時間を割いて講師を務めていただいた志鎌所長に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。(森ボラ担当の42林班か小班データを抜粋して添付しました。) (記・樞棒)

ラ生息調査、高山植物パトロール、外来種駆除作業、希少植物調査、登山道の整備など多岐にわたる。

- ・野幌森林再生プロジェクトとモニタリング調査結果・・・平成16年9月の台風18号により大きな被害を受けた野幌自然休養林を100年前の原始性が感じられる自然林の再生をめざして始めた。我協会も平成17年から活動に取り組み、天然更新を促す手法がとられ、そのモニタリング調査結果が公表された。それによると28個体を抽出調査し、樹高150cmを超えた7個体が順調な伸びを示し、ヤチダモ、ミズナラ1個体の他はトドマツが5個体となっている。再生段階は第2段階と考えられた。

### 《天然更新木》

- 平成18年 多種の天然更新木が定着中。
- 平成19年 植栽木の成長が良好。高木種の天然更新がみられる。ササの侵入は少ない。
- 平成20年 植栽木の成長は良好。天然更新木は種・数が多く活発。オオアワダチソウがみられる。
- 平成21年 植栽木の成長は良好。下刈りの影響で天然更新木の樹種は減少した。前年に続き、オオアワダチソウが確認された。⇒「第2段階」に入ってきた

- 平成22年度
  - ・植栽木の成長は良好で、総じて前年を上回っている。
  - ・天然更新木は1mを超える個体が多くみられている。
  - ・ササ類もそれほど増えておらず、クマイザサ、チシマザサが植栽列区の両側の枝葉堆積列区に多少みられる程度。林縁部ではクマイザサが多くみられるが、植栽列内部への侵入は少なかった。



再生段階としては「第2段階」と考えられる

平成23年度野幌自然環境モニタリング検討会第13回現地検討会(②42林班か小班=森ボラ担当地・抜粋)

## ■ 現場より

### ◆ 緊急チルホール安全研修・ ローソン緑の募金事業

(2月14日幹事会10名・2月17日澄川・会員11名)

私たちは国土緑化推進機構の一般公募事業を行っていますが同じボランティア団体に死亡災害事故が発生したとの通達を受けて幹事会にて座学 活動地現場にて安全研修会を実施しました。

**伐採試験木**：傾斜地で重心が傾斜の下方にある木を傾斜の上方に起こす方向に倒しました。

理由 A：下方が崖

B：下方に別の木があり懸り木の心配

C：下方に複層林幼樹あり。



#### 分かったこと

- 1 太い木の場合、上方に起こすような作業は私たちはやるべきでない。
- 2 事故報告にあるように残すツルの幅と方向が大事なことがわかりました。受口を十分深くとる(図の下の⇒)。
- 3 牽引ワイヤーは木の高い位置に掛けること。(図の上の⇒)
- 4 チェンソーマンが完全に退避してからチルホールで牽引すること。私たちは国土緑化推進機構の一般公募事業を行っていますが同じボランティア団体に死亡災害事故が発生したとの通達を受けて幹事会にて座学、活動地現場にて安全研修会を実施しました。

## ■ 今月の幹事会

出席者：市山・荻田・樫棒・酒井・佐野・高野・津金・釣井・西野(悞)・矢澤・和田

#### 審議および決定事項

- 1 24年3月スケジュール
- 2 事務局不在時報告事項・・・高野
- 3 ホンジュラスセミナー報告・・・酒井
- 4 24年度ローソン緑の募金申請内容の検討・・・釣井
- 5 ホダ木の件・・・和田
- 6 10周年記念行事委員会メンバー選定状況・・・樫棒
- 7 委員会報告 広報委員会 (Yahoo ジオシティーズ対応他) 業務委員会 (作業計画) 助成委員会 (助成応募状況他) 研修・企画委員会 (2・3月セミナー他)
- 8 その他 ・3/7旭山公園チェンソー・枝打ち講習会 (キタネット主催)  
・道新ぶんぶんの森春の植樹祭検討  
・当別 (オイスカの森) 下草刈り7月下旬実施検討

## ■ 活動履歴

活動日	行事・活動地	参加数	活動内容
1月18日(水)	セミナー(リンケージプラザ)	23	「北海道の薬草・山菜・毒草」 「ようこそ国有林」
1月20日(金)	澄川	14	樹木園整理・整理伐
1月27日(金)	澄川	13	樹木園整理・整理伐
2月3日(金)	澄川	12	樹木園整理・整理伐
2月19日(金)	澄川	19	樹木園整理・整理伐
2月13日(月)	ラルズビル	11	定例幹事会
2月17日(金)	澄川	11	樹木園整理・整理伐